



こんにちは、
角田よしひで です

岡田よしひで事務所 864-2426 南国市駅前町 2-5-11 県議会共産党控室 823-9524 高知市丸ノ内 1-2-20

2023年2月5日発行
県議会活動報告コース

NO.150
自宅 南国市浜改田 430-1
TEL/FAX 865-2932
携帯 090-4337-4527

農業とこれからの日本社会

長谷川・農民連会長が講演

高知県農民組合の定期大会が31日、高知ホールで開かれ、出席しました。

総会の前に、長谷川敏明・農日連動会
国連合会（農民連）会長が「農業とこれ
からの日本社会」と題して講演。食と農
業に関心のある組合員以外の方も多く参
加されました。



アグ日エコ日ジ一

生態系の力を生かした持続可能な農林業を

長谷川さんは、島根県の中央部の山あいに位置する邑南町（おおなんちよう）で、米作りと和牛飼育の家族農業を営んでおり、アグロエコロジー（農業生態学）

に取り組んでいます。それは、自然の生態系を守り、その力を生かして循環型の有機的な農業をめざすものです。

長谷川さんは、2頭いる牛のエサは稲わらやアゼ草などで自給しています。田んぼの農薬は除草剤の一回だけで、肥料は牛糞と落ち葉などを発酵させた堆厩肥（たいきゅうひ）、米ぬか、ウツドボイラーから出た灰を活用しています。自宅では調理以外の給湯や暖房も裏山の雑木や間伐材を燃やしてます。自家では殺虫剤を使わないため、納屋には毎年30力所もつばめが巣をつくり、水田の虫取りをしてくれるそうです。まさに環境と共生する循環型の農業の実践です。世界では、こうした生態系を守る循環型農業が大きな流れになっています。

長谷川さんは、全国の酪農家に声をかけ、畜産危機の突破をかかげて、昨年11月30日に農林水産省前で緊急行動に取り組みました。若い酪農家の「酪農ヤバイです」の訴えには大きな反響があつたといいます。

今回の畜産危機の根本には、飼料・肥料の外国頼みという問題があります。日本の食料自給率は38%です。種子や肥料の大半を外国に依存しています。外国頼みの農業を変えなければなりません。

1980年頃の国の予算では農林水産業が3・7兆円、軍事費が2・5兆円でした。ところが2023年度予算案は農業予算は2・3兆円で軍事費は6・8兆円と逆転しています。

長谷川さんは、農業を守る運動を、消費者と一緒に広げることが大事だ、農民連としては「アグロエコロジー宣言」をしようと議論していると語りました。

おむすび通信 (156)

合大会は、新組合長に土佐市
の藤田洋生さんを選出。私は
副組合長の一人に選ばれまし
た。前組合長の土居篤男さん
浜田勉さんは顧問になりました。
私は全国の農家の運動が
わかる農民連の発行する新聞
「農民」を愛読しています。